

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101489
法人名	社会福祉法人 啓正会
事業所名	グループホーム モン・サン井手園
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897 (電 話) 095-814-2777
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月 18日

【情報提供票より】 (平成20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 12月 1日
ユニット数	5 ユニット
職員数	25 人
利用定員数計	45 人
常勤	25人
非常勤	人
常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り
	7階建ての2～6階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000～15,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	39 名	男性	14 名	女性	25 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	14 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人啓正会 清水病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念である「やさしく・楽しく・げんきよく」を基本に5ユニットそれぞれに利用者本位の支援を実践している。ケアマネージャーを中心としたケア会議が充実しており、介護計画にもさまざまな関係者の意向が反映されるなど取り組みが優れている。また、時津町の依頼で「認知症高齢者をかかえる家族の会」との会合を持ち意見交換を行うなど交流も積極的に行っている。各ユニットのリーダーは日々の支援の中での問題意識が高く常に検討し、施設長に相談し質の向上に取り組んでいる。研修内容や支援に係わる職員からの意見は積極的に取り上げる環境ができています。行事をこまめに計画し、利用者が楽しく生活するための支援に全員が取り組む姿勢があるグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	評価結果は申し送りや定例会議で報告し、「情報閲覧ファイル」を2階に置いて自由に閲覧できるようにしている。前回の改善点は改善シートが作成され期間を決めて改善に向けた取り組みが行なわれている。しかし、外部評価の意義が家族へは伝わっていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価はリーダーが作成しており、職員全員の取り組みまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ実施されておらず、現在構成メンバーを選定中であり、今年4月には開催する予定である。同業者の成功事例を聞くなどして方法を考えており、年5回開催を目標としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族が要望や意見を直接職員に言うことができるような関係づくりができています。また、ケアマネージャーはその内容を把握し、ケアに関する個人記録に記録している。出された改善点はすぐ見直し検討を行っている。ただし、意見箱を設置しているが、苦情受付の外部窓口が重要事項説明書に明記されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	平成19年に自治会に入会し、事業所の行事のときは自治会長に相談、アドバイスをもらっている。時津町の文化祭には利用者の作品を出店し、利用者は見学に行ったり、事業所の行う夏祭りの案内をしている。自治会の夏祭りには飲み物の差し入れをするなど地元との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしく・楽しく・げんきよく」を理念として地域密着について職員ミーティングを行い、散歩などで地域の方と顔なじみになる機会を大切にしている。ただし、5ユニットそれぞれの個性はあるが事業所全体としてのまとまりに欠けており、地域密着のサービスについて話し合う場を設けていない。また事業所の理念の外部に向けての取り組みが弱い。	○	個性のある5ユニットであるため簡単ではないが、事業所全体として地域密着型サービスについて検討することを期待したい。また法人ホームページにグループホームの理念を載せるなど外部に向けての取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は会議や申し送りの際に運営理念や介護理念を確認し共有しており、出勤時の挨拶や、祭りの参加、スーパーへ買い物に行く際の声かけ等行事や外出の際に笑顔での挨拶を忘れないことを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成19年に自治会に入会し、事業所の行事のときは自治会長に相談、アドバイスをもらっている。時津町の文化祭には利用者の作品を出店し、利用者は見学に行ったり、事業所の行う夏祭りの案内をしている。自治会の夏祭りには飲み物の差し入れをするなど地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は申し送りや定例会議で報告し、「情報閲覧ファイル」を2階に置いて自由に閲覧できるようにしている。前回の改善点は改善シートが作成され期間を決めて改善に向けた取り組みが行われている。自己評価はリーダーが作成しており、職員全員の取り組みまでには至っていない。また外部評価の意義が家族へ伝わっていない。	○	外部評価の意義を家族へ伝える取り組みに期待したい。また、以前行われていたリーダー会議を再開し、ユニット全体の会議の中で職員も含め全員が自己評価の意義を理解し、取り組みを行うことが望ましい。

グループホーム モン・サン井手園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ実施されておらず、現在構成メンバーを選定中であり、今年4月には開催する予定である。同業者の成功事例を聞くなどして方法を考えており、年5回開催を目標としている。	○	今回掲げた4月から定期的に年5回の開催目標が達成されることを期待したい。また、運営推進会議で出される意見や要望が運営に反映されることも期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時津町からの依頼で「認知症高齢者をかかえる家族の会」との会合を持ち、グループホームが持つ役割を理解して頂いた上でどうあるべきかなど意見交換を行った。また、福祉保健部に相談したり、時津町祭りには利用者の制作した作品を出展して、時津町と協力しあい、連携を取りながら質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	当事業所はケアマネジャーが中心となって利用者の家族へ電話や面会時に暮らしぶりを伝えている。家族は月に1,2回訪問しているが、それとは別に月に1回請求書、モンサン便り、健康の様子を郵送している。急な変化や状況によっては随時連絡を取っている。家族への異動の報告は訪問時に口頭で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は要望や意見を直接職員に言うことができるような関係づくりができています。また、ケアマネジャーはその内容を把握し、ケアに関することは個人記録に記録している。出された改善点はすぐ見直し検討を行っている。ただし、意見箱を設置しているが、苦情受付の外部窓口が重要事項説明書に明記されていない。	○	事業所内に掲示してある外部苦情窓口を重要事項説明書に明記し、家族へ説明することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動についてはユニットを熟知している人を半分残し利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。新人職員にはベテランが付き、指導を行い利用者へのケアに差ができないように工夫している。		

グループホーム モン・サン井手園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には2ヶ月の研修期間を設け日勤帯夜勤帯の違いなどを十分に指導し、習熟度を見ながら現場へ着かせている。管理者等から要望がある研修は、施設長が把握し実施している。研修が夜の場合は事業所は受講する職員の送迎フォローをし、極力参加できる体制を整えている。ただし、計画的な研修プログラムは作られておらず、研修会への参加を促しているが、参加は少ない。	○	年間を通した人材育成のための研修計画を作成し、実施することを期待したい。また、管理者、職員の業務における個人目標を作成し、一年かけて達成するなど育成につながる取り組みと支援体制を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の見学要望が有れば対応している。他事業所へはケアマネージャーが参加し、拘束についての研修を受講している。グループホーム協議会は長崎市と時津・長与の両方に入っており、年に1回研修内容を話し合っている。職員は、連絡協議会主催のバザーやボーリングに参加し他事業所と交流を深めており、見習うべき点などを知る機会となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の問い合わせがあるとまずケアマネージャーが面談し、生活や身体状況を把握し、ユニットリーダーと検討する。また本人、家族は事業所を見学し、職員は利用者と少しずつ馴染むよう仲を取り持つよう配慮している。入居直後は家族が頻繁に訪問したり電話で話したりして安心するよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的に利用者を支援するだけでなく、普段の会話から知らない事を学ぶ事が多い。昔から伝えられた知恵としてアロエの効用、ふとん干しに最適な時間帯、田舎の風習、料理のコツなどがあり、職員と利用者は日常の中で互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や聞き取りが不自由な利用者には職員は一人ひとりに合わせた聞き取りをし、また家族を通して得た本人の希望も個人日誌に記録して職員が情報を共有し、日常の支援をしている。新人職員はベテランと比べて観察力に差があるためその都度ケアの話し合いをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はケアマネージャーが中心となり利用者や家族と話したあと、各ユニットリーダーと職員でケア会議の中で気付いた点を話し合い、アイデアを反映し計画を作成している。家族の要望や主治医の指示がある場合には確実に反映させている。作成した介護計画は家族へ説明し、その後サインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月毎に見直しているが、何か状況の変化があれば介護計画の随時見直しを行っている。気付きはその時点で話し合い、計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	県外に自宅があるのをずっと気にしている利用者を自宅まで送迎したり、同じ建物内にあるデイサービスのリフト浴を利用したり、事業所の多機能性を活かすサービスに取り組んでいる。		

グループホーム モン・サン井手園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約の際に説明し、家族了解のもと法人医療機関をかかりつけ医にしている利用者が多い。ただし、入居前からのかかりつけ医を希望の場合であっても家族同伴の通院が困難な場合は送迎支援を行っている。歯科は往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の重度化、終末期のあり方は看護師が常時付き添う生活になった場合には医療機関へ移り適切な医療を受けるよう支援することを方針としており、重要事項説明書にも補足で指針を添付し、家族に説明し、重度化が進むたびに話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の失敗は他の利用者に気付かれないようにさりげなく対応している。言葉遣いの研修を月に1度行っており、尊厳を大切に支援している。職員との雇用契約書に利用者の個人情報守秘義務について誓約書を取っており、家族には便りの写真掲載の許可を得ている。ただし、便宜上とはいえ個人情報を書いたものをユニット内に掲示するのは課題である。	○	個人情報の取り扱いについては十分は配慮をし、書類は掲示せず職員がわかる場所に保管するなどの対策が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分配慮しながら一人ひとりの生活パターンに合わせるようにしてる。食事時間や散歩や施設の行事等についても強制するのではなく、本人の気持ちを尊重して個別的な支援を行っている。		

グループホーム モン・サン井手園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の健康状態、噛む力、飲み込む力にあわせ、とろみや刻みや調理の対応をしている。朝夕は職員が支度を行い、また誕生会のケーキ作り、季節の行事に合わせた献立を利用者と話し作成している。アレルギーや嗜好にあわせた対応も随時行なわれている。職員の一人が利用者と同じ食卓で食事し、他の職員も利用者の食が進むように声かけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の利用者の状態を確認し、希望を聞きながら支援を行なっている。狭い浴室の中で、できるだけ快適に入浴してもらうように浴槽ボードを利用している。また7階のディサービスのリフト浴も利用している。利用者の希望があれば、曜日に関係なく入浴できるよう支援している。入浴拒否は時間を空けたり、気分転換を図って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者によって掃除、洗濯たたみ、茶碗の片付け、窓や手すり拭き等などそれぞれに役割を持って楽しみながら行っている。時にはユニットを移動して塗り絵や縫い物、貼り絵、水彩画等興味のあることに参加している。職員は何気ない会話や昔の楽しみごとなどの話題の中でヒントを得て支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には天候や本人の体調、希望に応じて散歩や買い物など戸外に出かけて地域の人と接する機会を多く持つよう支援している。時には花見やランフェスティバルなど季節の催しを通して外出の機会を作り、季節を肌で感じてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。帰宅願望の利用者がいるユニットはチャイムを設置して、出入りがわかるようになっている。表玄関はボタンを押してから施錠開錠する仕組みとしている。居室には鍵はかけず、自由な暮らしを支援している。防犯上、夜間は施錠している。		

グループホーム モン・サン井手園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署立会いの避難訓練と自主訓練をそれぞれ実施している。実施計画、報告書が整備されており、ラジオ・懐中電灯随時点検、消火器は年2回点検している。出火の際、地域の協力が得られるよう訓練が有る事を知らせている。道ノ尾病院との協力提携で災害時の保管食も確保している。ただし、組織図が古く実際には使用できないものである。	○	緊急時に備え、組織図を最新のものに差し替えることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事と水分の摂取量を把握し記録している。各人に合った食事形態をとっており、栄養バランスは法人内の栄養士に相談し、専門的なアドバイスも受けている。また、アレルギーや糖尿病などの利用者については主治医の指導を基に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆっくりとくつろげるように配置されており障害物が無くソファやベンチが置かれ、数人で談笑できるスペースもある。随所に季節の花や散歩時に積んで来た草花を飾り、家庭的な雰囲気気を大事にしている。換気も良く、居間からは台所が見え、包丁の音が聞こえ生活感がある。洗面はタオルは各自の物でその都度交換している。ただし、数年前の掲示物が貼ってあったり、各所の整理整頓が不十分である。	○	1階通路、浴室内の収容庫など、共有部分の整理整頓を心がけることが望ましい。また、掲示物は掲示期間を設定し、最新の情報に更新することを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や使い慣れた家具、日用品等、利用者の馴染みの品を置いて安心して過ごせるような工夫がしてある。個室のドアのガラス窓には、利用者の希望により色紙を貼ったり、部屋の前に立て看板をして分かりやすくし。居心地良く生活できるように配慮がされている。		

※  は、重点項目。